



写真提供 斉藤 清

シビルまちづくりステーション 会報 第13号

目次

発行にあたって	廣田 治	1
1. 総会報告	廣田 治	2
2. みんなで考える地区防災計画	伴登 義懿	3
3. 海老川橋めぐり	廣田 治	4
4. 橋百選の余話	日浦 明	6
5. ドキュワークス	堀内 徹	8
6. シビルNPO連携プラットフォーム（CNCP）の近況	花村 義久	9
7. 池畑輝男さんを偲んで	花村 義久	11
編集にあたって	池田 昭一	13

平成 29 年 7 月 1 日

発行にあたって

廣田 治

会報第13号をお送りします。会報は当NPOの現状あるいは抱えている課題など情報を執筆された会員の皆様から発信すると同時に、会員の皆様にとって情報を受信する場でもあります。また、会報はHPでも公開され、当NPOのPRにも利用されています。今後とも、会報を充実させていきたいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。

本会報発刊に際し、執筆された方々、編集の方に心より感謝申し上げます。なお、最後になりますが、当NPO会員として、液状化対策事業プロジェクトなどでご活躍された池畑輝雄さんが亡くなりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

平成 29 年度の総会は、当 NPO にとっては初めての経験ですが、私たちの朋友であった「池畑輝男氏」が 3 月に他界された追悼の意を込め黙とうから始めました。

その後、第 1 号～第 6 号議案の討議等を行いました。議長は堀内徹理事を選出し、書記は比奈地信雄理事を選任しました。会議は、正会員 9 名の出席、委任状 2 名の提出、合計 11 名で定足数を十分に満たしていました。

第 1 号議案の平成 28 年度の活動報告並びに 2 号議案の会計報告は池田事務局長から報告され、承認されました。さらに、第 3 号議案は日浦監事より会計帳簿、現金出納等に問題がないと報告がされ承認されました。

第 4 号議案の監事改選は、日浦明監事の辞任により、新任に馬場先勝弘氏が任命され全員一致で承認されました。

第 5 号議案の平成 29 年度の活動は、現在まで実施されてきた活動内容・方針を踏襲します。

- 橋百選は U&C 掲載を佐賀県、高知県、大分県、山形県の各県順に行う。なお、2 年後の平成 31 年 4 月には、全 47 都道府県が完了し、総括を含めた企画をフォーラムエイトと協議し、企画立案を行う。
- ・緑化・芝生化の推進は、関東でメンバーの高齢化に伴い参加者が減少しており、新たな事業には取組まないで必要最小限の範囲で事業を継続するなどの活動計画を提案し承認された。

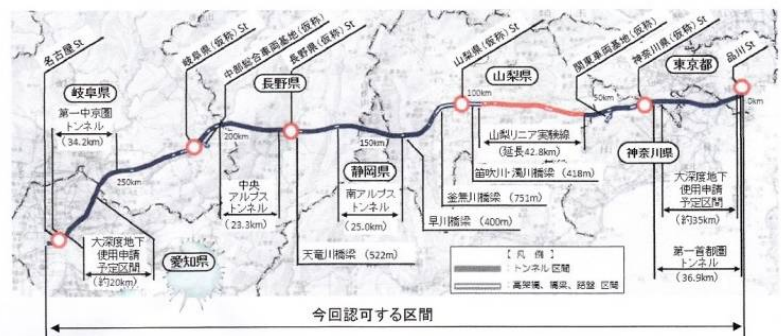
第 6 号議案の平成 29 年度予算は原案に基づき池田事務局長から説明され全員一致で承認された。なお、西日本の芝生事業は採算性をめざし、本部でも支援できる事項を提案・実施することにした。



総会終了後、松下芳亮氏による「リニア中央新幹線建設計画について」の特別講演がありました。松下さんは当 NPO の自然災害(液状化、土砂災害等)関係の活動に普段から協力していただいています。

松下さんは 1965 年に日本鉄道建設公団に第 1 期生として入社され、数々の鉄道建設工事等に従事されてきました。その中でも「北海道新幹線、津軽海峡線(青函トンネル)」に関しては、計画課長として 2 年間、その後北海道方海底部建設所長として、先進導坑貫通時点までの 4 年間従事されました。また、技術士「建設部門(トンネル)」の保有者でもあります。

リニア中央新幹線は、2014 年 10 月品川～名古屋駅間の工事実施計画が認可、2015 年 12 月南アルプストンネル工事着工、2016 年 1 月品川駅着工、東京～名古屋間 2027 年開業予定(5.5 兆円)、東京～大阪間 2045 年開業予定(9.3 兆円)。場所によっては標高が 2000m を超える南アルプス、中央アルプスにトンネルを建設し、東京と名古屋を直線的に結ぶ計画である。用地確保が難しい大都市圏では、地権者への補償が不要な「大深度地下」が活用され、その結果品川～名古屋駅間約 285km の内、おおよそ 250km、約 88% がトンネルになる計画である。地上を走る区間は、甲府盆地付近の約 20km、飯田市付近の約 4km、岐阜県中津川市付近の約 4km などの一部に限られる。



末尾になりましたが、大変忙しい中資料の準備等行って頂いた松下さんに衷心よりお礼を申し上げます。

防災や減災のためには我々自身による自助及び各地区での共助が極めて重要であることは、災害が起こる度に叫ばれていることですが、これを制度化したものが「地区防災計画」です。

防災計画には、国が定める「防災基本計画」、都道府県が定める「〇〇都道府県地域防災計画」、市町村が定める「△△市町村地域防災計画」がありますが、地区防災計画は下記Ⅰ、Ⅱのとおり、平成25年6月改正の「災害対策基本法」で創設された制度で、平成26年4月1日施行されました。

Ⅰ. 第42条(市町村地域防災計画)1,2項 省略

3. 市町村地域防災計画は、前項各号に掲げるもののほか、市町村の一定の地区内の居住者及び当該地区に事業所を有する事業者(以下「地区居住者等」という。)が共同して行う防災訓練、地区居住者等による防災活動に必要な物資及び資材の備蓄、災害が発生した場合における地区居住者等の相互の支援その他の当該地区における防災活動に関する計画(「地区防災計画」という。)について定めることができる。

Ⅱ. 第42条の2 地区居住者等は、共同して、市町村防災会議に対し、市町村地域防災計画に地区防災計画を定めることを提案することができる。この場合においては、当該提案に係る地区防災計画の素案を添えなければならない。 2～5項 省略

このうちⅠ(42条第3項)は、市町村が作成する地区計画で、Ⅱ(42条の2)は地区居住者等が自ら提案する地区計画について規定しています。以下Ⅱの場合について解説します。

地区防災計画は、その地区の居住者等によって自発的に行われる防災活動に関する計画で、その居住者等の意向が強く反映さ



れるボトムアップの提案型計画です。その地区の特性に応じた計画を検討するにはまずその自然的特性(地形、地質、気候等)や社会的特性(まちやコミュニティーの状況、年齢構成、災害時自給度等)等その地区の特性を把握し、起りうる自然災害とその被害の程度等を推定します。この際、市等で作成している各種災害に関するハザードマップが参考になります。また、これに合わせて「まち歩き」をして危険場所や避難所等への避難ルートの安全性を確認する等して、その地区独自の「防災マップ」を作ります。

こうした作業から地区の災害に関する課題(安否確認ルール、要配慮者の支援、避難開始ルール等)を抽出してその対策を検討し、防減災活動計画(訓練、備蓄、共助支援等)を検討する等して、地区防災計画素案を作成します。また、計画策定上の課題の検討には、クロスロードゲーム、DIG(災害図上訓練)、HUG(避難所運営ゲーム)等の各種ゲームも役立ちます。なお計画は実行可能でなければなりませんので、何度も実行訓練をして、改善し検証しながら、行政等のアドバイスも受けながら地区防災計画素案を策定することになります。

ひらがなの「まちづくり」にはハードとしての「街」、ソフトとしての「町」の両方が含意されていると思いますが、「地区防災計画」は「シビルまちづくりステーション」として、取り組むべき重要テーマの一つであると考えます。



(注記)本文中の写真は内閣府 防災情報のページ掲載のパンフ「災害が起きたら、あなたはどのようにしますか?」～みんなで地区防災～ から引用しました。(参考) <http://www.bousai.go.jp/kyoiku/chikubousai/index.html>

太郎橋

船橋中央卸売市場の南端に位置し、日本の童話をイメージし、桃太郎・金太郎・浦島太郎・物くさ太郎の像が設置されている。1992年（平成4年）の海老川 13 橋の内最後の竣工。



さくら橋

さくら橋より上流兩岸には、桜並木道がつづく、また橋名「さくら橋」は市民公募で決定される。元来は堰堤であったものを橋とした経緯があります。

また、当日晩秋の 11 月であるにも拘らず、比較的陽気が良かったので「さくらの花」が写真のように咲いていました。



鷹匠橋

海老川に架かる唯一の木橋で、江戸時代將軍の徳川氏が鷹狩の様子を見る際のお立ち台として使っていたことが橋名の由来

となっています。1989 年（平成元年）6 月に新しく架橋されました。



前述しましたように、海老川に架設されている橋梁には、現時点では損傷がほとんど見られませんでした。

宮川千助作「河口湖大橋」



当会の会員であった宮川氏は、山梨県出身で、橋梁工事会社で在籍時に当橋の架設計画や現場施工に携わられました。湖での FC 架設は非常に珍しく、この絵を描くにあたっては当時使用した機材の図面を取寄せ正確性を期されたと聞いております。それが技術屋の矜持と言うものかと感心いたしました。

今年の絵画展にも、「聖橋とニコライ堂」の大作を出展されており、今でも【橋】のある風景を求め、お元気で絵筆を振るわれております。

【十八女大橋】



故郷「徳島県」の橋の取材時や帰郷した折々に、橋の話題を提供してきましたが、ある日、この橋名「何と読むか？」と写真が知人より送られて来ました。徳島県南部日和佐地方に架かる「橋」だそうです。さて皆さん、何と言う橋だか・わかりますか？



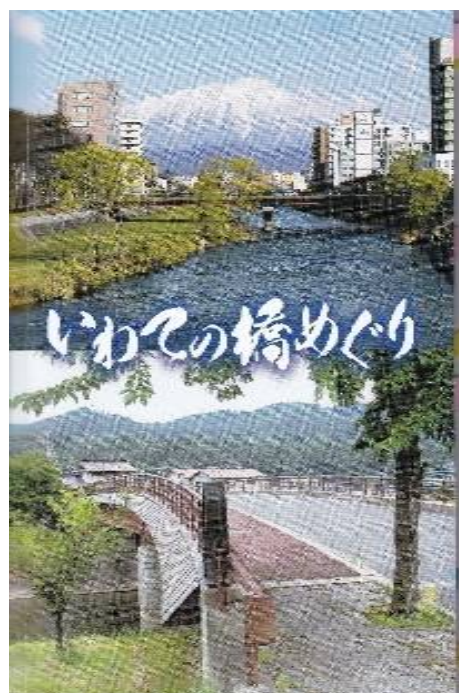
「いわての橋めぐり」

今春、橋仲間から素晴らしい冊子が小生に届き、感激しました。

この冊子は当会会員の佐藤健氏編集の A4 版 130 頁、写真を多用した大作で地元コンサルタント会社「土木技研」から刊行されました。ただし残念ながら非売品です。

小生にとっては 30 年前出版された「切手に見る世界の橋」(理工図書刊)に勝るとも劣らないお宝の一冊になりました。

氏は自他ともに認める No1 の橋愛好家です。何時までもお元気で大好きな橋を追い駆られますよう願っております。



「きみまちの里みゆき橋」

「昨年秋号」で取上げた能代市二ツ井町【きみまちの里みゆき橋】で明治天皇御筆の碑を紹介しました。それを見た秋田出身の先輩 K 氏がこの碑に自分の名前を落書きしたこと、学校や町中が大騒ぎとなったことをそっと教えてくれました。当時K氏の父親は、地元中学校の校長であったため更に問題が大きくなったとのことでした。

戦前であれば本人は勿論、親戚一同までにも累が及ぶ「不敬罪」に問われかねなかった先輩の少年時代を垣間見る機会になりました。



「ご挨拶」

私事で申し訳ありませんが、5月20日の総会をもちまして監事を退任し当 NPO から退会することになりました。長い間お世話になりました。

私は、学校を卒業以来もうすぐ 50 年間になりますが、土木の設計業界で特に RC 構造物関係・基礎工関係の構造設計作業を行ってきました。今でも連日作業しています。当初、設計作業に使用する道具としては、手動加算計算器・そろばん・シャープペンシル・複写用計算用紙で成果品としては青焼き製本でした。40 年程前から計算器として、電卓・パソコン・計算ソフト等が発達し、現在はパソコンによるエクセルで計算し、計算ソフトを併用して設計計算書を作成し、最終的にドキュワークスで編集しメールで納品する形式です。

初めてドキュワークスを知ったのは 15 年程前です。当時設計計算書を作成し、最後にページをふる作業を新入社員の仕事としていました。確かコピー機で 1 枚ずつページをふり、その作業に時間が掛り、客先との約束時間もあって重労働でした。ある日、新入社員がドキュワークスなるもので、瞬時にページをふる機能を見つけ、狂喜しました。客先でその話をすると、『ドキュワークスってなんだ！』という返事が返ってきました。恐らく土木の設計業界で誰も使ってなかったでしょう。使っていても、一部分だったと思います。それが、数か月後には業界の標準装備となり、今でも同様です。ただし、ソフトがないと使えないので、他の業界では一般的ではないのでしょうか。

私の長男は機械設備の設計をしています。関心をしめしません。客先も建築設計の会社ではドキュワークス納品は禁止で、ドキュワークスで編集したものを PDF に変換して納品しています。昔、当 NPO の会員が PDF 機能に惚れ込んで、営業マンを呼んで講習会を開いたことを記憶していますが、ドキュワークスと同じような機能だな、と思っただけで大して関心をもちませんでした。多分、PDFの方が一般的でしょう。私はドキュ派で通します。

※ドキュワークス 詳しくはこちら→<http://www.fujixerox.co.jp/product/software/promotion/docuworks/>

DocuWorks World

- > DocuWorks 8新登場
- > DocuWorksインタビュー
- > DocuWorks ワンポイント TIPS
- > DocuWorks ドキュメントレイ オプション
- > iPhone/iPad/Android アプリ
- > DocuWorks アカデミック版
- > DocuWorksメディア掲載
- > 関連商品のご紹介
- > オリジナルアノテーション&テンプレート

DocuWorks 8

快適な「電子の紙」で
オフィスワークを素早くもっと効率的に。

[詳しくはこちらへ](#)

DocuWorksの総合情報サイト DocuWorks World

[【重要不具合情報】DocuWorks 8\(バージョン: 8.0.3\)において特定のドライブにあるすべてのファイルが消失する不具合についてお詫びと緊急対処のお願い](#)

[DocuWorks 8ダウンロードソフトウェア提供方法変更のご案内](#)



シビル NPO 連携プラットフォーム(CNCP)は設立して3年近くが経ちました。その短い期間に組織もしっかりし、成果を上げてきました。

設立3年目、組織基盤を固めながら創立来立ち上げた事業を軌道に乗せ、それをさらに創意に満ちた事業として発展させようとしています。

具体的な活動は、定常的な組織である、サービス提供部門、地域活動推進部門、事業化推進部門を通じて行われ、あわせて土木学会関連では土木学会連携担当として組織活動を進めています。

サービス部門は建設分野の NPO 等に対する中間支援組織として機能するもので、内外に対する定常的なサービスとしての活動支援、すなわち、情報交換、広報提言、教育・行事などを行います。特に他部門の新たな活動に対しては、その支援、連携に力を入れています。中でも、協働コーディネータ養成講座などによる組織基盤強化のための人材育成、会員の増強と組織を支えるサポーターの確保、財政基盤を確立するための NPO ファイナンス研究会の立ち上げなどは重要視しているものです。

地域活動推進部門は、自治体インフラメンテ研究会という組織を中心に自治体などへのヒアリングを通じて自治体でのインフラメンテ事業の可能性を模索していましたが、国家レベルで組織化されたインフラメンテナンス国民会議が発足したのをきっかけにそれとの関連で新たな展開を見せようとしています。この国民会議は平成28年11月の設立総会をもって正式に発足しましたが、その各部門の事務局に CNCP のメンバーが参加し貢献しようとしています。

事業化推進部門では、すでに立ち上げたマッチングシステムとシンクタンクチームは具体的に活動に入る段階にきています。この中でシンクタンクチームは南房総 CCRC(CNCP の HP を参照)のプロジェクトを提案し、南房総 CCRC 事業化研究会として組織化し活動を開始しました。これは地域創生の考え方で進められていますが、最近では「うなぎ完全養殖インフラ整備研究会」などユニークな事業の提案もなされています。なお、NPO のソーシャルビジネス化の啓蒙のための CNCP アワードは、平成28年10月第1回の表彰を終え、次の募集に入っています。



土木学会連携担当としては、土木学会として重要視している社会貢献と市民交流の活発化の推進役として CNCP が機能することが考えられ、差し当たりソーシャルビジネスの顕在化等をテーマにしたフォーラムの開催などが検討されています。また、平成28年度土木学会学術文化事業助成として、シビル NPO 推進のための官民、産民連携の可能性と阻害要因の調査を行っています。

最近力を入れているものに、サポーター会員の体制作りがあります。新たなサポーターの方に CNCP の活動を知ってもらい、またお互いの交流を図ろうと、今年の4月12日、第1回サポーターミーティングを開催しました。サポーターの方には、CNCP に関わりあうことによって、シビルマッチやセミナー、CNCP 通信の配信やそこへの投稿、あるいは活動への直接参加など、そのメリットを享受して頂きたいと思います。また、そのようなことを足掛かりに自らの活動領域を拡大したり、社会に対して提言したり、社会的課題解決を行う事業機会を得

たりして頂けたら有難いと考えています。もちろん、サポーターであること自身が CNCP の社会貢献活動に参加することであり、そのことにより CNCP の活動も活きたものになることは言うまでもありません。

CNCP では、活動をみんなで楽しくやろうではないかと申し合わせています。それを具体的に形にしてみようと、この度明治150年企画ワーキングを発足させて会員の募集をしています。第一回のサポーターミーティングでは、小松氏の講演「明治150年—どぼくの歴史と文化の発掘」が行われました。

当 NPO は建設系 NPO の連携推進という立場で創設時から関わり合ったということもあり、この活動には積極的に参加しています。皆川理事は地域活動推進部門の担当常務理事としてまた国民会議の実行会委員や市民参加フォーラムの責任者として、比奈地理事は正会員で事務局として活動しています。また、廣田理事長はサポーター会員で自治体インフラメンテ研究会に委員・国民会議メンバーとして、また伴登理事、斎藤会員はサポーターとして参加しておられます。私も法人正会員の立場で副代表理事として総括的な計画や総会・運営会議の議長、自治体インフラメンテ研究会に委員・国民会議メンバーのかたちで参加しています。皆さんも気に入るものがあれば参加して、この場を大いに生かして下さい。

※CNCP ホームページ → <http://npo-cnecp.org/>



今年の3月19日、当 NPO 会員の池畑輝男さんが逝去されました。謹んでご哀悼の意を表します。

ご本人の考えで、病については仲間にも一切口に出されず、亡くなった時の通知もご家族には一切しないようにという指示を出されていたそうです。ということで、我々が知ったのも少し遅れてでした。病気は癌、発病したのが昨年7月、2種類のがんが同居し最後は多機能不全という診断がなされたそうです。

その2、3年前、交通事故で大変苦勞なされやっと回復して喜んでいた矢先だけに、今回の不幸は残念でありません。

私が池畑さんと出会ったのは平成21年2月、建設系の NPO で共同開催したフォーラムの時でした。池畑さんはそこに参加され、当 NPO に入会されました。この時開催したフォーラムは、建設系 NPO の連携組織として「シビル NPO 連絡会議」として発展しましたが、池畑さんは事務局として大きく貢献をされました。この組織はその後土木学会発の NPO、「NPO 法人シビル NPO 連携プラットフォーム」へと繋がっていきました。



シビルフォーラム

平成23年3月、3.11の東日本大震災では当 NPO の調査隊として参加されました。



東日本大震災(気仙沼にて)



液状化被害(浦安にて)

池畑さんは大変熱心で、被害の状況に対し突っ込んだ観察をし、解説入りの立派な写真集も作られました。その後地元浦安や船橋の液状化の被害状態の調査をし、これがきっかけで液状化対策プロジェクトが生まれ、そのプロジェクトリーダーをされました。まだ世間では液状化の認識がされてない時期でしたが、パンフレットを作ったり、フォーラム・セミナーの開催など積極的に活動の指導をされました。これは船橋市の市民活動支援事業としても採用され、大きな社会的評価を受けました。今も自然災害防災プロジェクトとして受け継がれているものです。

池畑さんは NPO の運営や日常活動にも積極的に参加し貢献されました。運営では監事(監査役)として経理の指導・管理をされました。また、日常活動での芝生化推進のプロジェクトや土砂災害の夏休みボランティアなどでは、児童や学生と楽しそうに接しておられました。



土砂災害危険地域の調査(小・中・大学生と)



芝生化推進プロジェクト(御滝中にて)

奥様の話では、彼は背筋を伸ばして実直に生きていくような男、大変な勉強家で部屋は足の踏み場のないほど資料で一杯だったそうです。建設省現役時代のものから全部だから大変だとか。あわせて大変な家庭思いだったようです。お二人は筑波山などで体を鍛えながら、最後まで全国の名山踏破を目指して楽しんおられたそうです。



筑波山頂

編集にあたって

池田昭一

当NPOの目的のひとつは、まちづくりに関し、市民・社会と行政との橋わたしをすることといってもいいでしょう。まちづくりを担う主役のひとつが土木ですが、それを技術的に支えてきた土木学会は、2014年で設立100周年を迎えました。

明治維新以来、富国強兵の名のもと近代化を推し進めてきた日本では、土木技術も軍事と一体化したものであった。というより、西欧より技術的に立ち遅れていた日本では、軍事こそ近代化の最先端の技術であったともいえます。

陸軍で土木を担ったのは、工兵という兵科であり、いわばエンジニア部門ともいえます。工兵は、「種々の器具を以て野堡を築き、橋梁を架設し、又は野戦及び兵站間に電信を架設すると共に、之等のものを破壊する」ことを任務としました。橋梁については、道路橋、鉄道橋とも扱い、架設、補修、仮設橋の運搬、架設などがその範囲でした。仮設器材のうち、水深の深い場所では舟と舟を横に並べて、そのうえに桁を渡し橋にしました。舟は鋼鉄製であり、当初ベルギーなどの技術を取り入れて製造していましたが、日清戦争では現地の実情に合わず、まるで役に立ちませんでした。そこで、その改造を託するため白羽の矢が立った人物が、白峰駿馬というアメリカ留学経験のある造船技術者でした。奇しくも彼は幕末、坂本龍馬と行動を共にした越後長岡藩出身の海援隊士でした。彼は橋体の重さと強度との釣り合い、分割が容易などの技術的な困難を克服し、7年の歳月をかけ、新たな鉄舟を完成させました。日露戦争発端の鴨緑江の戦いで、日本軍が勝利した主因がこの鉄舟を利用した渡河にあったといわれ、この鉄舟は白峰式（鏑木剛士「鉄舟橋」）と呼ばれるようになりました。これは一例ですが、日本の技術者は西欧の技術を取り入れながら、その知識と着想で技術発展に貢献してきたということは、軍事も同様です。土木も異なる視線で見えてみると、見えて来るものもありそうです。



鴨緑江に架けた仮設橋を渡る第一軍部隊

Wikiwand 日露戦争より(<http://www.wikiwand.com/ja/日露戦争>)

さて、当NPOも設立以来15年経ち、そろそろ一つの岐路に差し掛かった観もありますが、今後とも異なる見方で見えるものを大切にしたいものです。

以上

発行者

NPO 法人シビルまちづくりステーション

東京都豊島区南池袋 2-12-5 第3中野ビル4F

TEL 03-3987-6646 FAX 03-3989-0062 Eメール info@itstation.jp

ホームページ <http://www.itstation.jp>